

公民館豆知識・トリビアのコーナー

第3弾!

このコーナーでは、公民館の、思わず「へ〜」と言ってしまうような話題を紹介いたします!

新旭川公民館には山内壮夫さんのレリーフがある。



「みんなのあさひかわこうみんかん 第9号」にて、愛宕公民館にある山内壮夫さんのレリーフ「天馬と馬」をご紹介いたしました。実は新旭川公民館にも山内壮夫さんのレリーフがあるんです! こちらは「少年と女」というタイトルのブロンズレリーフです。1983年に旭川市に寄贈されました遺作67点の内の1点です。
1階ロビーにありますので、公民館に来た時にご覧ください。

神居公民館の植木の形は、ハートとカメ。



神居公民館の裏玄関横の植木は、「カメ」と「ハート」の形にキレイに刈り込んであります。
この植木は、神居公民館の清掃員の大津さんの力作です。公民館に来た時には、ちょっと裏側ものぞきこんでみてくださいね!

神居公民館には、10体のあさっぴー達がいる。



市の施設の窓口などにちょこんといるあさっぴーとゆっきりんのペーパークラフト。これ、実は大半が、ある公民館事業課職員(当時)が展開図を一から設計したものなのです!(他の方の設計のものもありますが)
神居公民館の事務所には、そんなあさっぴーが大勢(10体も!),皆様のお越しを待っています。最近ゆっきりんも1体加わりましたよ。こちらの組み立ては、神居公民館の奥山指導員が頑張っています。窓口に来られた時は、ぜひ注目してくださいね。

神楽公民館のあるセンター入り口には、すごい木製レリーフがある。

神楽公民館の入っている神楽市民交流センターの1階エントランスの壁(図書館側)には、縦6m60cm、横3m10cmというとても大きな木製のレリーフがあります。ニレ、ミズナラ、イヌエンジュ、カツラ、シナノキなど20種類の樹種の木片9,000個を使って、大雪山・石狩川・旭橋など旭川の街並みを描いています。
大きすぎて、普段なかなか気にしないで通り過ぎているかもしれませんが、玄関を入った時に、左の壁を見てみてください!



公民館 ひとひとひとのコーナー

第2弾!

このコーナーでは、公民館に関わる人々を紹介します。

郷土史研究家の齋藤 和さん

齋藤 和さんは、永山を愛し、先人の歩みと生い立ちを調査し、その成果を地域誌などに掲載して伝承することに務めている郷土史研究家です。永山公民館の生涯学習団体「永山郷土資料収集懇話会」の主要会員でもあります。
特に、永山公民館と「永山郷土資料収集懇話会」が平成23年に発刊した「のこそよ、永山の歴史」は330ページに渡るもので、永山の開村120年を記念して執筆・編集した代表的な郷土誌です。
残念ながら「永山郷土資料収集懇話会」は平成25年度をもって生涯学習団体としては解散しましたが、齋藤 和さんは郷土史研究家として現在も活動中です!



齋藤 和さん

中央公民館の元気な利用者、山城ミサヲさん



山城 ミサヲさん

中央公民館には、高齢で元気な名物利用者さんがいます。その方は、山城ミサヲさん、大正4年12月30日生れです。現在、数えて102歳になりますがとても元気で、詩吟の練習に通っています。
山城さんは、80歳で中央公民館の詩吟サークル「吟成会」に入られました。初めての趣味として始めた詩吟とのことですが、今では無くてはならないものとなっているとのこと。
山城さんのこれまでの人生は、昭和9年にNHK旭川放送局として建築された中央公民館と、軌を一にしており、中央公民館の名物利用者さんと呼ばれています!



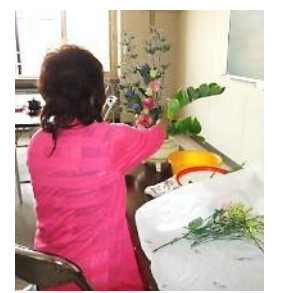
吟成会のみなさん

新旭川公民館に花を飾ってくださっている「生け花サークル なでしこ」の皆さん

会員の皆様の家に咲いている花を集めて作成した生け花



新旭川公民館の開館当初からとなる31年間、公民館で活動されている「生花サークルなでしこ」の皆さんは、いつも公民館にきれいな生け花を飾ってくれます。基本的には花屋から季節の花を購入して生けていますが、自分たちの庭で咲く花を持ち寄ることも多いとのこと。講師の方もボランティアで指導されていて「趣味・習い事が多様化している中で、幅広い世代に伝統ある華道の魅力を伝えていきたい、華道の伝統文化を守り続けていきたい」という信念のもと活動されています。



作成の様子

自然のふれあいの中から集めよった花を愛で、公民館に飾っていきたくおっしゃる「生花サークルなでしこ」さんは、公民館を利用される皆さんに憩いを与えてくださっています!